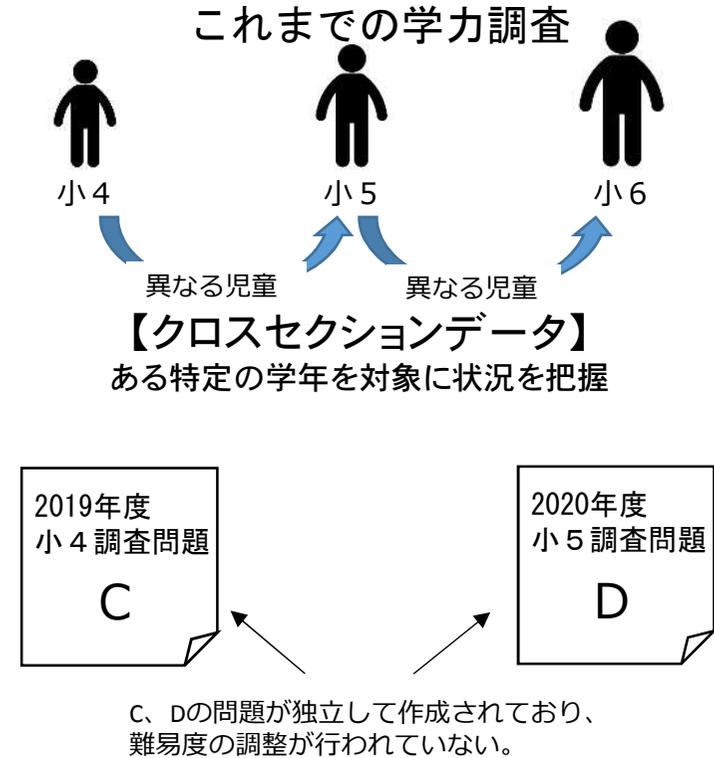
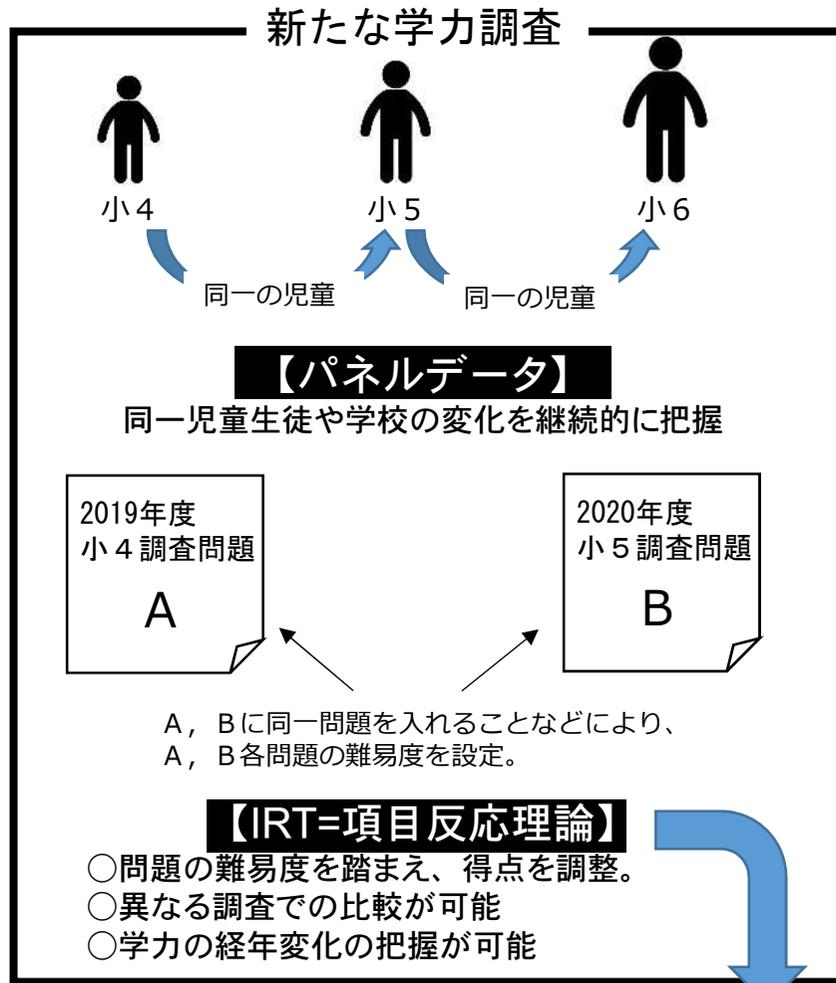
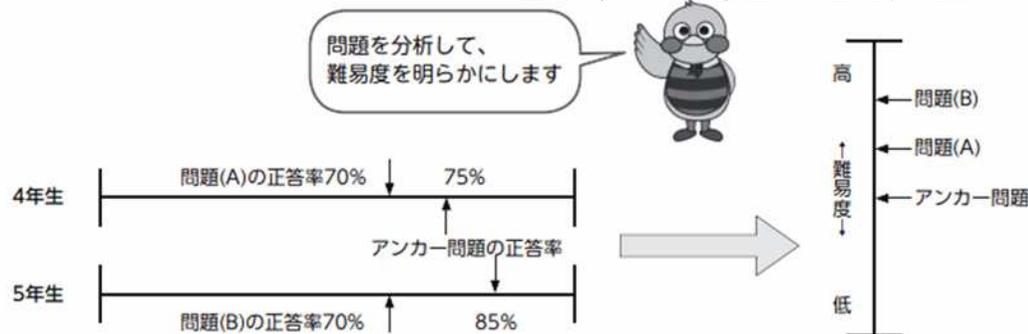


「ふくしま学力調査」について【調査の特徴】



◆問題が易しいから点数が良いのか、学力が上がったから点数が良いのか不明。
(理由：問題の難易度を調整していないため、
学力の経年変化の把握が不可能)

どうやって問題に難易度をつけるの？



【アンカー問題】・・・一つ下の学年に出題した問題と同一問題
【問題の難易度の分析方法】

- アンカー問題の正答率 4年生 75% 5年生 85%
- アンカー問題と別の問題 (A) の正答率 4年生 70%
- アンカー問題と別の問題 (B) の正答率 5年生 70%
- アンカー問題の正答率の差が学年による学力の違いなので、両者を調整してアンカー問題の難易度を定める。
- アンカー問題は問題 (A) 及び問題 (B) より正答率が高いので、3つの問題の中で最も難易度が低い。
- 5年生が仮に問題 (A) に正答した場合、正答率は (B) より高くなると考えられる。(B) は (A) よりも難易度が高い。

新たな学力調査の効果

これまでの曖昧な「正答率」に基づいた学力調査



ビッグデータ等を活用し、ひとつひとつの問題に明確な難易度を設定

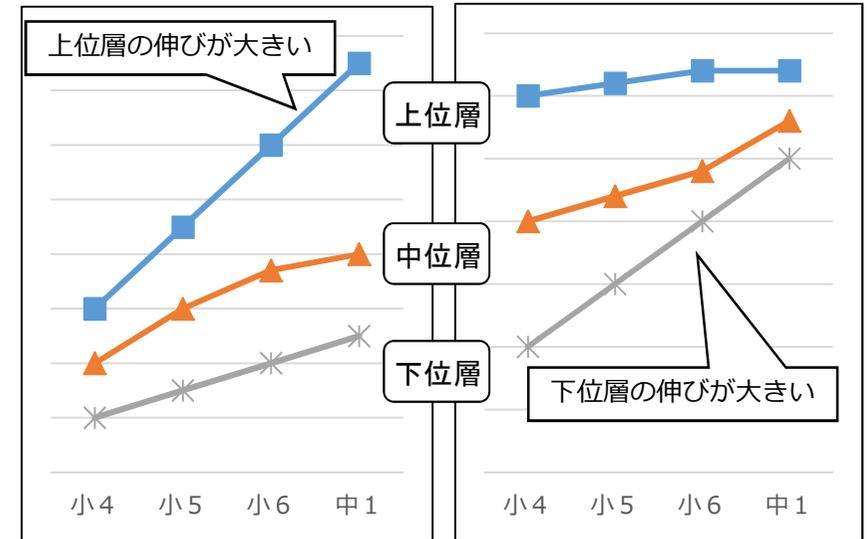
さまざまな難易度の問題を散りばめた学力調査を継続して実施することにより、子どもたちひとりひとりの学力の伸びを把握することができる。

		小4	小5	小6	中1	中2
高 ↑ 学 力 ↓ 低	レベル12					
	レベル11					
	レベル10					
	レベル9					
	レベル8					
	レベル7					
	レベル6					
	レベル5					
	レベル4					
	レベル3					
	レベル2					
	レベル1					

子どもたちの学力の伸びを「見える化」できる

○上位層の子どもを良く伸ばしている学校（クラス）

○下位層の子どもを良く伸ばしている学校（クラス）



この学校（クラス）の先生はどのような教え方をしているの？

◎これまで
個々の教員の経験と勘に基づく指導



◎これから
調査結果に基づく指導方法の工夫改善により、子どもたちの学力を確実に伸ばすことができる